

声・担当者に聞く

成長と変化

日生病院図書室
千住 とも子

「近畿病院図書室協議会」が20歳の成人式を迎えました。あたかも、「日本医学図書館協会」を親とも慕うがごとく学び20年が経過しました。近畿病図協（近畿病院図書室協議会）の会員数は増え、全国には幾つかの地域ネットワークも生まれました。

近畿病図協は確実に相互の協力と啓蒙の実を上げ、その近畿病図協の一員として近畿病図協の確かな成長に大いなる感激を覚えます。

大学図書館で学び送り出されて来た医療人の受け皿としての病院図書室は蔵書数等大学図書館に及ぶべくもありませんが、卒後教育の役割の一端を担うものであることは間違いないと考えます。疾病、医薬品、医療機器ほか、医療を取り巻く環境は常に変化しています。それらの情報を求めて図書室が利用されます。情報提供システムも変化しています。近畿病図協では各種の情報を会誌で伝えてくれます。研修会で技術の実習の場を提供してくれます。会員間の雑誌所在目録を作成配布してくれます。これで私達の仕事にはこと足ります。近畿病図協の一員でいれば受身でいても時代に遅れることはないとの20年の経験で知りました。

かくして近畿病図協の傘の下での安住を決め込んでいますが、世界は広いとばかりに来年ワシントンで開催される第7回国際医学図書館会議の案内を戴きました。5年に一度のことであり同時にアメリカ医学図書館協会の年次総会にも触れることができるということで、全くの言葉の不自由さも顧みず自らのリ

フレッシュに役立つならば参加しようかと思ったりします。案内の一部を紹介すると、The 7th International Congress Medical Librarianship(7ICML) will be held in Washington, DC, May 10-12, 1995, following the 95th Annual Meeting of the Medical Library Association(MLA '95). Come to Washington in 1995 for the extraordinary opportunity to attend these two meetings in one week. Both meetings share the theme "Health Information for the Global Village".

この20年、医療情報・医療情報システムは大いに変化しました。これに伴い図書室にはコンピューターが支配する機械類が幅をきかせています。過去、本の番人ともいわれた図書室のイメージが確実に変わりつつあります。このまぎれもない変化の中であって我身を振り返った時、近畿病図協の成長に比しどれほどの成長があったのか忸怩たる思いを持ちます。個人としていささかでも成長したいと望みます。

感化されて

阪和記念会館図書室
佃 貴美子

大学で司書課程を選択していた私が、幸運にも司書の仕事に就くことになったのは、もう何年も前の春のことです。資格を生かせる仕事に就ける喜びと期待で胸はずませていました。しかし、実際実務となると、学んできた図書館学はあまり役に立たず、たくさんの重い医学書に囲まれて不安な毎日を過ごしていました。